

実施校を募集

神奈川県内の高校等へ 国際教育の講師を派遣します！

「国際教育とは？」

国際社会において、地球的視野に立つて行動するための考え方や能力を育むための教育活動全般を想定しています。（関連する分野：国際理解教育、人権教育、開発教育など）



地球規模の
課題を考える



多文化社会を
生きる

グローバルな
視野で活躍する
先輩と出会う

留学生との交流



教員研修



事業概要

かながわ国際交流財団（KIF）は、「世界に開かれた神奈川、世界と結ぶ神奈川」を目指し、グローバルな視野を持ち、共生社会をつくる人材の育成や、県内における多文化共生の推進などを目的とした事業を展開する神奈川県所管の公益法人です。

一人でも多くの青少年が「世界の入口」に立てるよう、各種プログラムの企画相談・講師派遣を通じて、高等学校等の国際教育をサポートします。

実施概要

対象 神奈川県内の高等学校等

※公立・私立を問いません。外国人学校（高等学校相当）からもご応募いただけます。

募集校数 年間15校程度

実施時期 平成30年5月21日（月）～平成31年3月22日（金）

応募方法 企画書をFAXまたはE-mailにてお送りください。

※企画書はこの募集要項の5ページ目、または、次のURLからダウンロードできます。

[http:// www.kifjp.org/nimp/highschool](http://www.kifjp.org/nimp/highschool)

受付期間 平成30年3月26日（月）～平成31年1月31日（木）

※企画書の提出からプログラム実施の可否のご連絡まで最低2か月程度のお時間をいただいております。企画書は余裕をもってご提出ください。一部、企画書の提出から1か月半程度で実施可能なプログラムもございます。詳細はお問い合わせください。

※募集校数に達し次第、受付を終了いたします。

※講師や内容については、お気軽にご相談ください。

費用 講師への謝金・交通費等は、原則として当財団が負担いたします。

※謝金を伴う実施は1校につき年間1件とさせていただきます。

※学校に関連予算がある場合は、講師への謝金・交通費等をご負担ください。

※ワークショップの実施にあたっては参加者や講師の人数により、一部謝金のご負担をお願いする場合があります。

※できるだけ多くの学校にご参加いただくため、初めてお申込みいただく学校を優先し、当事業で5回以上講師派遣を行った学校のお申込みについては、他校を優先させていただく場合があります。

主催 公益財団法人 かながわ国際交流財団

後援 神奈川県教育委員会、一般財団法人神奈川県私立中学高等学校協会

お問い合わせ・お申し込み

公益財団法人かながわ国際交流財団 高校国際教育支援事業担当

住所：〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町 2-24-2

かながわ県民センター13階 多言語支援センターかながわ内

電話：045-620-0011 FAX：045-620-0025

E-mail：haken@kifjp.org

ホームページ：http://www.kifjp.org/nimp/highschool

国際教育プログラムの企画運営や講師に関するご相談は随時受け付けております。
有料でのプログラム実施についてもお気軽にお問い合わせください。

実施テーマ

- 国際的に活躍するNGO/NPO関係者や学識経験者等の講演のほか、少人数での参加型・対話型のワークショップや留学生とのディスカッションなどを実施しています。
- 対象の目的に応じて、下記のA～Eのテーマに応じた企画・講師派遣を行います。
下記のA～Eからお選びいただき、「企画書」(P5)に記入してください。

A 貧困、平和、人権問題など、地球規模の課題を考える

グローバル化が進む中、貧困や紛争、人権問題など、国際社会全体に関わる多くの課題が山積、複雑化しています。高校生世代が将来直面する「地球規模の課題」について考えます。

実施例

世界の格差や多様性を体感するワークショップ

<参加者の声>

実際に重いて体験することでリアリティを感じることができた。あまり話したことのない人とも交流を深められた。



B 多文化社会を生きる

神奈川県には約170か国、18万5千人の外国籍県民が生活しています。企業のグローバル化（海外進出・対日投資等）、国際結婚、2020年東京オリンピック・パラリンピックなど、海外から来日し、生活する人々は益々増加すると考えられます。多文化化する社会の現状と、異なる背景を持つ者どうしが共生していくために、何が必要かについて考えます。

実施例

外国につながるの講師による講演



<参加者の声>

人と違うところは自分の個性だと思って、色々なことに挑戦しようと思った。

実施例

外国人、障がい者など多様な背景を持つ人々との共生について講演



<参加者の声>

事故を起こしても自分の体が動けなくなっても、希望を捨てずに前に向かう人がこの世界にはたくさんいるということ。そのような生き方は人を笑顔にすることを教えてくれた。

実績

実施校の累計 187校（平成19年度より実施）

実施校の内訳

県立高校…61校、川崎市立高校…2校、横浜市立高校…3校、横須賀市立高校…1校
私立高校…14校 ※複数回実施している場合はカウントしていません。

㉔ グローバルな視野で活躍する人と出会う・進路を考えるきっかけをつくる

国外・国内を問わずグローバルな視野を持ち活躍する社会人から、高校時代から現在に至るまでの経験を語っていただき、将来や進路について考えるきっかけをつくります。

実施例

海外留学・社会経験のある講師による講演

<参加者の声>

チャレンジすること、経験を積むことが、いかに自分の可能性や視野を広げることになるのかに気づいた。



実施例

ものごとを深く語り合う「哲学対話」のワークショップ

<参加者の声>

答えのない問いについて、みんなで考えてみて自分とは違う考え方や物事の捉え方を知り、共有することができて面白かった。



㉕ 留学生との交流・グループワーク

㉕-1 複数校生徒 参加プログラム

- ・県内で学ぶ留学生を複数名派遣します。グループワークなどを含む企画実施が可能です。
- ・㉕-1 に限り、複数校の生徒が参加するプログラムへの派遣となります。
- ・使用言語は相談に応じます。（日本語または英語）

㉕-2 東海大学別科日本語研修課程 留学生交流プログラム

- ・東海大学で日本語を学ぶ留学生を派遣する特別プログラムです。
- ・内容は留学生による出身国紹介のほか、留学生と高校生のコミュニケーションを重視したプログラムなどのご相談が可能です。
- ・同一時間帯に1クラスに対し3～4名を目安に留学生を派遣します。複数クラスで同時に交流活動ができます。
- ・使用言語は日本語のみです。留学生の出身国の指定はできません。
- ・派遣可能時期：5月中旬～7月上旬、10月上旬～1月上旬
※5月中旬～7月上旬のほうが、日程を調整しやすいことがあります。
- ・派遣可能範囲：原則として、東海大学湘南キャンパス（神奈川県平塚市北金目4-1-1）から車で片道1時間程度までの学校に限ります。

実施例

留学生が各クラスで自国の文化などを紹介

<参加者の声>

日本と全く違う文化、食生活、行事、服など比較して楽しかった。



㉖ 教員研修

㉖-1 上記㉔～㉕のテーマについての講演

㉖-2 生徒の参加・コミュニケーションを促すワークショップの体験、進行等

これからのグローバル社会を生きるために必要な力として、語学力に留まらないコミュニケーション能力、主体性・積極性、協調性・柔軟性、異文化に対する理解や次世代まで視野に入れた社会貢献の意識などが挙げられています。生徒の主体的な参加やコミュニケーションを促すワークショップの体験、実施のための教員向け研修も可能です。

FAX : 045-620-0025

E-mail : haken@kifjp.org

公益財団法人かながわ国際交流財団 高校国際教育支援事業担当 行

平成 30 年度「高校国際教育支援事業」企画書

学 校 名	
学 校 長	
担 当 教 員	
住 所	〒 -
電話 / FAX 番号	電話 : FAX : 連絡のつきやすい時間帯 ()
E-mail	
実施希望日時	第一希望 : 年 月 日 () 第二希望 : 年 月 日 () 時間 : ~
実施会場	
最寄り駅・バス	電車 : 線 駅 / バス : 最寄りの駅・バス停からの徒歩 分
対 象	学年等 : 人数 : 名 (クラス)
テ ー マ ※実施テーマから お選び下さい	<input type="checkbox"/> A …… 貧困、平和、人権問題など、地球規模の課題を考える <input type="checkbox"/> B …… 多文化社会を生きる <input type="checkbox"/> C …… グローバルな視野で活躍する人と出会う・ 進路を考えきっかけつくる <input type="checkbox"/> D -1… 留学生との交流・グループワーク (複数校徒参加プログラム) <input type="checkbox"/> D -2… 留学生との交流・グループワーク (東海大学別科日本語研修課程 留学生交流プログラム) <input type="checkbox"/> E …… 教員研修
希望する プログラムの内容	※プログラム内容のイメージや期待する効果等を具体的にご記入ください。
年間計画等における 本プログラムの 位置づけ	

プログラム実施までの流れ

1

企画書のご送付

- ・所定の企画書（P5）に、必要事項をご記入の上、FAXまたはE-mailにてお送りください。
- ・企画書提出からプログラム実施の可否のご連絡まで最低2か月程度のお時間をいただいております。企画書は余裕をもってご提出ください。一部、企画書の提出から1か月半程度で実施可能なプログラムもございます。
- ・企画段階でのご相談もお受けしております。お気軽にご連絡ください。

2

実施の可否のご連絡

- ・企画書の内容について確認し、企画書提出後2か月をめどに実施の可否をご連絡します。
- ・企画内容、時期などにより、ご希望に応じられない場合はお断りすることがあります。
- ・応募多数の場合は、本事業により過去に支援を受けた回数の少ない学校を優先します。

3

確認書のご提出

- ・日程、講師等の確定後、確認書をお送りします。必要事項をご記入いただき、公印押印の上、ご提出ください。

4

事前打ち合わせの実施

- ・プログラム内容、当日の進行、機材などについて事前打ち合わせを行います。プログラム実施の1か月から2週間前までに、実施校のご担当の先生、講師と当財団担当者の三者で、原則としてかながわ国際交流財団の事務所（横浜駅から徒歩5分）、または講師が指定する場所までお越しいただくようお願いいたします。

5

プログラムの実施

- ・実施校による司会進行のもと、プログラムを実施します。当日は当財団担当者も同行し、講師のフォローを行います。
- ・パソコン、プロジェクター、音声機材等の準備、設置、設定は実施校をお願いいたします。
- ・当財団の協力による実施である旨、受講者に明示をお願いいたします。また、当財団が実施する高校生向けのプログラムを受講者にご紹介することがあります。
- ・プログラムの様子を撮影し、広報等に活用する場合があります。
- ・プログラムの実施について学校ホームページ、広報誌などに掲載する場合にも、当財団の協力による実施である旨、明記をお願いいたします。

6

アンケートのご協力

- ・ご担当の先生とプログラムの受講者には、プログラム終了後にアンケートへのご協力をお願いいたします。アンケートは広報等に活用する場合があります。